# 数研『改訂版 情報Ⅰ Next』（情Ⅰ/104-902）観点別特色

## **（１）内容**

情報モラル・セキュリティ，プログラミング，データの分析が特に重視されており，実践的な能力が養えるよう実習が豊富に盛り込まれた教科書である。

音や画像のデジタル表現・パケット通信のしくみなど，表面的な説明ではなく，原理や理由が論理的にていねいに記述されており，知識がしっかりと身につくようになっている。

本文の内容は，見開き単位で極めて簡潔な文章でまとめ，主に図解によって詳細を説明しているので，生徒は興味を持続させながら学習できる。

## **（２）構成・分量**

第1編において問題解決および情報モラル・セキュリティの内容を扱い，以降の学習に必須となる知識および考え方を身につけられるようにしている。

やや高度な内容を「StepUp」という要素で区別してあるため，学習進度や理解度に応じて，取捨選択して授業をしやすくなっている。

本文中では，短時間でこなせる簡単な実習（TRY）を適宜扱っている。また，より時間のかかる実習は，取捨選択がしやすいように，編末に掲載しており，授業計画が立てやすい。

各編末には，編のまとめと問題が掲載されているので，学習内容の整理に役立つ。

巻末には，ソフトウェアの使い方，著作権に関する資料，プログラミングに関する資料など，豊富な資料が簡潔にまとめられており，授業の資料として使いやすくなっている。

## **（３）表記・表現及び使用上の便宜**

楽しく親しみやすい紙面となるよう，人物のイラストを豊富に掲載した。また，主要な登場人物として高校1年生の男女を設定し，登場人物と一緒に学習しているような紙面となるように配慮した。

各編冒頭の「中学とのつながり」では，中学の学習内容を振り返りやすくなっている。

話しあいに活用できる要素として「話しあってみよう」を各節に用意し，主体的・対話的で深い学びを促している。

キャリア教育との関連および他教科との関連が深い内容にマークをつけることで，情報という教科が社会および幅広い分野との関わりがあることを意識させている。

第3編のプログラミングの内容では，地域や学校の実態および生徒の状況に応じて，例として扱うプログラミング言語を複数掲載している（Python・表計算マクロ）。

本文と関連のある興味を喚起する話題を「Topic」として適宜扱っているので，生徒が飽きずに教科書を読み進めることができる。

側注には，適宜，本文を補足した内容を掲載している。また，側注の記事の「Note（類語）」では，似た名前の用語をまとめて学習できるようになっている。

## **（４）その他**

情報に関する普遍的な内容を重視しているが，AIやメタバースといった新しい話題もしっかり扱っており，非常にバランスがとれた教科書である。

生徒に身近な例やイラストなどを豊富に用いて，親しみやすく，理解が容易になるように工夫されている。たとえば，動画の説明のため，頁の右下がパラパラ漫画になっている。

全体を通して，情報通信技術の表面的な使い方だけでなく，体系立てた科学的な理解を重視し，豊富な実習を行うことによって，問題の本質を見極めるための知識と実践力を身につける教科書になっている。